

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

受診施設名	桂ぶどうの木保育園	施設種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 24 年 12 月 3 日

総 評	<p>桂ぶどうの木保育園は、運営母体である社会福祉法人京都基督教福祉会が保育園や介護施設、専門学校などを運営しており、それらで培われた経験を活かして平成 23 年に設立された新しい保育園です。園周辺は新しく駅が出来るなど、子育て家庭が増加しており待機児童が多い地域にあります。</p> <p>キリスト教の教えを柱とし、心から地域の保育を必要とする児童と、その保護者の幸せを祈り、保育を行っています。保育方針に掲げる目指す子ども像を「自分で考え、自分で行動する子ども」、保育環境を「選んで遊べる、選んで生活できる環境を」として日々の保育を考え、実践しています。各保育室では「選択自由あそび」の環境を整備しており、子どもの発達段階を考えて、子どもの興味・関心が芽生え繰り返し経験する事が出来るよう工夫しています。</p> <p>保護者のニーズに応えられるよう、7時から20時までの開園や年度途中の入園も出来る限り対応しています。3歳未満児は成長に応じた保育を心がけ、3歳以上児は異年齢のきょうだい保育の中で、子どもが自発的に物事に取り組めることを大切にしています。地域の未就園児の親子を対象にした子育て支援にも取り組んでおり、地域の子育て家庭を支えられるよう努めています。</p> <p>開園4年目ですが、管理者を中心として丁寧な子どもとの関わりを実践し、決して押し付けにならない、日々の営みの積み重ねを大切にしたいきめ細やかな保育が行われるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育目標の中に、モンテッソーリの考え方が謳われています。はさみや針、のりなどのさまざまな道具や、ビーズや毛糸、ブロックなどの材料を自由に使って造形活動が出来るよう配慮されています。子ども達が継続性を持って造形活動に取り組める「選択自由あそび」を大切に、落ち着いた環境で、遊びに没頭出来るよう取り組んでいます。 ・ 園児が、園庭で種や苗植えから季節の野菜の栽培を体験し、収穫した食材は、クッキング保育などで調理し食べています。月 2～3 回のクッキング保育の実施に加え、普段の生活の中で野菜の皮をむいたり、目の前でお好み焼きを焼くなど、食への関心が高まるよう工夫をしています。 ・ 子育て支援として、地域のニーズに応えられるよう一時保育事業、育児相談、園庭開放、3歳未満の未就園児の親子対象の保育室開放「遊ぼう会」、0歳児の未就園児親子対象の「保育園であそぼう」、「離乳食をつくってみる会」などを行っており、地域の子育て家庭を支える取り組みを行っています。
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の研修計画などを作成し、それに基づく研修参加を実施し、研修レポートの評価・反省を次の研修計画に反映されるとな良いでしょう。 ・ 遊具や設備の安全点検を項目に応じて実施出来るよう点検表を作成し、安全面のチェックを定期的実施されるとより良いでしょう。 ・ 不審者侵入時の対応を書面でまとめ、職員間で共有しやすいよう工夫されると良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

受診施設名	桂ぶどうの木保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育教会
訪問調査日	2014年12月3日（水）

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	B	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	A	A
	I-1-2 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	B	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	A	A
I-2 計画の策定	I-2-1 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。	A	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	A	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	A	A
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	B
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	A	A
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	B	B
	I-3-2 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	A	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A

[自由記述欄]

・聖書の中の一節「私はまことのぶどうの木、あなた方はその枝である」を理念として、保育の方針・保育目標が確立されており、園のしおりに明示されています。職員には、職員会議で周知に努めています。保護者へは、園のしおりをもとに説明を実施し、ホームページやクラス懇談会などで周知に努めています。また、毎年園主題を決め、園長より保護者や職員に説明を行い、目指す保育を理解してもらえるよう取り組んでいます。

・保育課程の編成についてはクラス会議からチーフ会議にあげて行い、指導計画の評価・反省については、毎月のクラス会議で実施しています。また、期ごとの指導計画については全体職員会議で評価・反省を実施しています。今後は、会議で話した評価・反省についての記録をさらに充実されると良いでしょう。

・園長・主任は、保護者や職員に対してリーダーシップを発揮しており、現場の声を大切に考え、自主的に保育に取り組めるよう配慮しています。今後は、職務内容の役割と責任について文書化されるなど、組織表及び職務分担表などを作成されるとより良いでしょう。

・遵守すべき法令等について、周知に努めていますが、今後は法令等をリスト化し、いつでも閲覧確認が出来るよう整備されるとより良いでしょう。

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	A	A
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	B	B
		② 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	A
		② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	B
	II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	C	B
		② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	C	B
		③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	B
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	A	A	
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	A	A	
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	A	A
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	C	B

[自由記述欄]

・必要な人材に関するプランを確立しています。職員の意向や意見を把握出来るよう年1回職員と管理者の面談を実施しています。園全体で対応できるような内容の場合は、職員会議やチーフ会議で話し合い、改善に努めています。今後は、プランに基づいた人事管理に努められると良いでしょう。

・職員は、研修計画をもとにキリスト教保育の学び・保育内容の学び研修を中心に参加しています。専門の講師による園内研修や、研修内容の発表も年2回実施しています。今後は、個別の研修計画などを作成し、それに基づく研修参加を実施し、研修レポートの評価・反省を次の研修計画に反映されるとなお良いでしょう。

・子育て支援として、地域のニーズに応えられるよう一時保育事業、育児相談、園庭開放、3歳未満の未就園児の親子対象の保育室開放「遊ぼう会」、0歳児の未就園児親子対象の「保育園であそぼう」、「離乳食をつくってみる会」などを行っており、地域の子育て家庭を支える取り組みを行っています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	C	B
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	C	B
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	B	B
		② 定期的な自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	C	B
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	A
		② 定期的に入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	A	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	B	A
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	B	A
		④ 定期的な自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	C	B
Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B	A
		② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	A	A
	Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。	① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	A

[自由記述欄]

・個人情報保護に関する研修を全員に実施し、職員会議等でも徹底しています。今後は、それらの内容をマニュアルとしてまとめられると良いでしょう。苦情解決の仕組みを整備し、その内容は園内に掲示しています。現在、大きな苦情等はありませんが、保護者からの苦情や要望を記録し、対応方法などを今後活かせるよう整備されると良いでしょう。

・初めての第三者評価受診ですが、受診に向けて職員間で自己評価や、評価内容について会議等で話し合い、改善のきっかけとして取り組んでいます。今後は個々の職員による自己評価も年1回以上実施されるとより良いでしょう。

・子どもの育ちや保育に対する情報は、ケース会議を開催し職員間で情報共有に努めています。日々の保護者からの要望や、子どもの様子は毎日お昼に行う全体会で確認し、その内容は「ミーティングノート」に記入し、その他の職員にも伝わるようにしています。

・利用希望者に対し、随時園見学を受け付けています。園長が必ず対応し、1組ずつ案内することを基本としており、丁寧な対応を心がけています。

・転園の場合、保護者からの要望に応じて、保育要録による引継ぎを実施しています。

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1) 健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	B	A
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	A	A
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	B	A
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A
	IV-1-(2) 保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	A	A
	IV-1-(3) 保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	B	A
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	B	A
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	A	A
		④ 身近な自然や社会とかがわかるような取り組みがなされている	A	A
		⑤ ささまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	B	A
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	B	A
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	A	A
⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる		C	B	
⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる		B	A	

【自由記述欄】

・健康管理マニュアルがあり、その内容は園内に掲示されています。また、年1回健康調査表を提出してもらい、健康に関する子どもの様子や既往症、予防接種などの状況を把握するよう努めています。また、健康診断や歯科健診の結果は、健康ノートに記録し、保護者に伝えていきます。その中でも気になる内容や治療が必要な場合は、直接口頭で必ず保護者に知らせています。感染症発生時に対応するマニュアルが整備され、発生時には保護者に知らせる体制を整えています。

・園児が、園庭で種や苗植えから季節の野菜の栽培を体験し、収穫した食材は、クッキング保育などで調理し食べています。月2~3回のクッキング保育の実施に加え、普段の生活の中で野菜の皮をむいたり、目の前でお好み焼きを焼くなど、食への関心が高まるよう工夫をしています。月1回お弁当の日を作り、戸外などで食べるようにしています。調理担当職員が保育室での喫食の状況を確認するだけでなく、保育士からも給食についてアンケートを取り、献立に反映しています。おやつは手作りを中心に提供しています。保護者には年1回、給食体験の実施や、0歳児の保護者を対象に年3回「離乳食をつくってみる会」を開催しています。

・保育目標の中に、モンテッソーリの考え方が謳われています。はさみや針、のりなどの様々な道具や、ビーズや毛糸、ブロックなどの材料を自由に使って造形活動が出来るよう配慮されています。子どもたちが継続性を持って造形活動に取り組める「選択自由あそび」を保育の柱として、落ち着いた環境で、あそびに没頭出来るよう取り組んでいます。また、月齢ごとにグループ分けをしており、年度途中で子どもの成長に応じてステップアップを行っています。

・各保育室は清潔に保たれ、ロッカーなどの収納スペースも職員の意見を参考に工夫しています。今後は、遊具や設備の安全点検を項目に応じて実施出来るよう点検表を作成し、安全面のチェックを定期的実施されるとより良いでしょう。

・異年齢のきょうだいグループを作り、兄弟姉妹の関係を園内で築き、子どもが子どもの中で様々な体験が出来るよう取り組んでいます。0歳児クラスでは、子どもの状況に応じて過ごす事が出来るよう、あそびのスペースと生活のスペースを分けています。また、給食時には保育者と子どもの関わりを深め、安心して食べられるよう担当制にしています。

・長時間保育のための保育室があり、家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう整備しています。今後は、当日の延長保育時に提供したおやつ等の内容を展示するなど、保護者が確認出来るよう工夫されると良いでしょう。

・障害児との関わりを大切に考えており、専門の講師の助言指導を受け、計画性を持って関わっています。また、障害児のいるクラスでは、その関わりについて保護者の理解が深まるよう懇談会で伝えていきます。

IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行なっている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	A
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	A	A
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容（指導計画）や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	A
	IV-2-(2) 一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	A	A

[自由記述欄]

・3歳以上児の保護者と年1～2回の個人懇談、3歳未満児の保護者とは、1日1人ずつの保育参観と個人面談を年1～2回、クラス懇談会は年3回実施しており、園の保育内容について理解が深まるよう取り組んでいます。また、それらの内容は記録されています。

・子ども一人ひとりの記録等の書面が整備されています。

・一時保育専用の部屋があり、担当者2名で保育を行っています。

IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1) 安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	A	A
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	A
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	C	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	C	B

[自由記述欄]

・衛生管理マニュアル、食中毒に対するマニュアルを整備し、それに基づいて体制を整備しています。

・ヒヤリハット作成により事故防止に努めています。今後は、安全点検チェックリストにより定期的に安全確認をするなど、事故防止に向けた取り組みを工夫されるとより良いでしょう。

・事故や火災発生時のマニュアルを整備しています。今後は、不審者侵入時の対応を書面でまとめ、職員間で共有しやすいよう工夫されると良いでしょう。